

科目	総合教養Ⅱ-「こころ」について学ぶ-		単位数	2
担当教員	櫻井 秀雄			
履修対象	社会福祉学科1年秋学期・臨床心理学科1年秋学期・健康科学科1年秋学期・福祉栄養学科1年秋学期・リハビリテーション学科共通1年秋学期			
目的	人間は動物とは別に「こころ」を持つといわれる。今日その「人間のこころ」が疲れ傷つき麻痺し、人間もまた崩壊する。われわれの時代の深刻な問題状況を先端科学研究の成果から学び、「人間のこころ」を回復させ、きょうの「いのち」を感謝して建学精神である「感恩」のこころが育つようにと目指す。 代表コーディネーター:教授 櫻井秀雄(臨床心理学科)			
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1) 受動的ではなく自ら学ぶ意思を示す。 「思考・判断」 (1) 他人に言われるのではなく自ら学ぼうとする。 (2) 専門研究の異なる本学の各分野から最新の学識を結集させ、複雑な織物ともいわれる人間の「こころ」について、総合的に思考・判断できるようになる。 「技能・表現」 (1) 前節の思考の結果、疑問や意見が生じた際、適切に表現できる。 「知識・理解」 (1) 現代の科学研究(心理学・医学など)はどこまで「こころ」について解明できるのかを知る。 (2) 現実に「こころ」の疲れが今日どのような姿で現れ、問題(疲労)を生むのかを知る。 (3) 疲れ傷ついた「こころ」はどこでどのように癒され、「こころ」が回復され、生きている喜びを感謝しつつ、福祉社会で働く意義を理解する。			
授業計画				
1	「こころ」を科学する(1)-どのようにして「こころ」を科学するのか 教授 亀島信也(臨床心理学科)			
2	「こころ」を科学する(2)-最新科学はどこまで「こころ」を読むのか 教授 亀島信也(臨床心理学科)			
3	こころと身体(1)-ターミナル・ケアの現場から学ぶ「こころ」の大切さ(がん患者・家族の「こころ」への接し方) 教授 柏木 雄次郎(臨床心理学科)			
4	こころと身体(2)-ターミナル・ケアの現場から学ぶ「こころ」の大切さ(がん患者・家族が抱える苦痛症状について) 教授 柏木 雄次郎(臨床心理学科)			
5	「こころ」を育てる食生活(1)-食卓の崩壊・家族の崩壊・「こころ」の崩壊 講師 西村節子(福祉栄養学科)			
6	「こころ」を育てる食生活(2)-こんな食生活でからだ・こころを元気にしよう 講師 西村節子(福祉栄養学科)			
7	「こころ」の疲れ(1)-関西福祉科学大学生について調査報告から 教授 倉恒弘彦(健康科学科)			
8	「こころ」の疲れ(2)-「疲労学」と食品について 教授 倉恒弘彦(健康科学科)			
9	建学精神の「こころ」-「感恩」について 理事長 江端源治			
10	「こころ」を癒す(1)-子どもの発達障害と「こころ」の癒し 教授 櫻井秀雄(臨床心理学科)			
11	「こころ」を癒す(2)-イルカ介在療法と「こころ」の癒し 教授 櫻井秀雄(臨床心理学科)			
12	福祉の「こころ」を学ぶ(1) 教授 津田耕一(社会福祉学科)			
13	福祉の「こころ」を生きる(2) 教授 津田耕一(社会福祉学科)			
14	「こころ」と健康-こころのスキル・アップ(仮題) 新任教員(臨床心理学科)			
15	まとめ(授業内での試験) 教授 櫻井秀雄(臨床心理学科) / 新任教員(臨床心理学科)			
授業形態	講義。パワーポイントなど視聴覚機器を使用。			
教科書				
教科書名	著者名	出版社	金額	
参考書				
評価方法	授業に対する貢献度・授業中のアンケート回答・小レポート提出および期末試験によって評価する。			
留意点	授業ではプリントを配付し、必要な参考文献を指示する。 なお、授業には真剣に取り組んでほしい。特に他の受講者に迷惑を及ぼすような態度・行動は厳に慎むこと。			
準備学習	毎回の講義についてのノートおよび配付する資料は大切に保管し、必ず、復習して、次回に臨むこと。			
備考	履修者が定員(200名)を超えた場合は、原則、抽選等何らかの方法で履修者を決める。 毎回出席を確認する。遅刻者は正当な理由がない限り、出席として扱わない。 また、講義日および講義テーマ・講師については、変更や入れ替えの可能性がある。			No. GE212002・RC112002